

みんなが気軽に 出掛けるために

私たちは普段、何げなく街中に出歩き、仕事や学校に行ったり、趣味を楽しんだりしています。しかし、お年寄りや障害のある方は、外出するだけでも大変なことがあります。それを理由に生活を楽しめないとしたら、とても残念なことです。負担が少しでも軽くなるよう、バリアフリー化が進み、また、みんなが支え合えば、もっと暮らしやすくなるでしょう。

バリアフリーとは？

目をつぶって歩いたことがありますか？自分の進む方向さえ分からなくて不安になるでしょう。障害のある方は、普段私たちに分からない不自由な思いをしています。

これを少しでも軽くするために、妨げとなるもの（バリア）を取り除き、建物や道路を使いやすくしていくことをバリアフリーといいます。

足が不自由で車いすを使っている方は、ちょっとした段差でも越えるのが大変です。階段の上り下りもできません。また、幅の狭いところは通れません。そこで、スロープやエレベーター、広い通路が必要になります。



オストメイト（人工肛門・ぼうこう使用者）のために腹部洗浄用温水シャワーの付いたトイレ（地下鉄大通駅）



車いすの方でも通ることができる幅の改札機とエレベーター（地下鉄大通駅）

耳の不自由な方は、駅などで音声の案内があっても分かりませんので、文字の行き先案内が必要です。お年寄りはどうでしょうか。人により差はありますが、年齢とともに、耳が遠くなったり、目が悪くなったり、足が不自由になったりしていきます。障害者のための配慮は、お年寄りにも役立つものが多いのです。

このほかにも、あまり知られていない障害がたくさんあり、それぞれに合わせて工夫が必要です。



みんなが立ち止まる危険箇所を知らせる点字ブロック

みんなが使いやすい 街並み

バリアフリーは、個別の不自由さを解消するための手段です。それがより多くの人に使いやすいものとして認められてきました。例えば、目の不自由な方のためにシャンプーとリンスのボトルの違いを凹凸で表わしたところ、それ以外の人にも分かりやすいと評価されました。

このように、より多くの人に共通して使いやすい形を目指すことをユニバーサルデザインといいます。

この考え方を街並みに応用できると、より多くの人が暮らしやすくなりますね。

さっぼる車いす ガイドブック



バリアフリー化が進んだとはいえ、まだすべての建物が利用しやすい状態とはいえません。特に車いすを使用する方が外出先で困るのはトイレではないでしょうか。

このガイドブックは、車いす使用者用トイレが設置されている建物を案内するもので、駐車場やエレベーターの有無などの整備状況も掲載しています。また、地下鉄大通駅、さっぼる駅のエレベーター乗り換え案内や、お出掛け応援情報など、車いすでの外出に役立つ情報がいっぱいです。

区役所二階保健福祉サービス課（南三西一一）、市役所三階福祉施設課（北一西二）で配布中です。

詳細・福祉施設課

☎(211) 2972



バリア そう アフリー